

月刊島民

中之島

Vol.55 2013 2/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン

日々の歌が中に出す、シマとあそぶ人々、生きた島

語ってくださーい、あの頃を

歌ってくださーい、あの歌を

男と女の人情模様

出逢いと別れと愛の街

お佐堀、お生島、新地、天神

今日も水辺に花がともる

オフィスの窓に、西場のネオン

川の流れにそよぐ花

雨に降られた茶屋、木

歌ってくださーい、
中之島で。



ナカノシマ大学

「大阪弁と小説の
いい関係」

久坂部 羊・金水 敏

申し込み受付中!



Request.1 「お約束」で盛り上がる、北新地ソング。 レッゴー三匹『新地ワルツ』(1973年)

私の心に残る中之島ソングといえば、今も昭和の香り漂うスナックで歌い継がれるあの名曲、レッゴー三匹の『新地ワルツ』。北新地の小さなスナックで働き始めた20歳の頃は、演歌も歌謡曲も自分にとってはお経のようなもの。最初はいくら聞いても退屈だったのが、いつの間にか歌謡曲の『唄の輪、マジックの虜になっていた』。

特に印象深いのがこの曲。どこのお店にも必ずいる役者顔負けの芸達者なお客さんたちが、盛り上げるためによくセレクトします。そして軽やかに賑やかに歌

い終わる最後のサビで、常連さんたちはいつも声を高らかにこう言います。「じゅんでーす！ 長作でーす！ 三波春夫でーございますー！」。

お客さんたちはこのオチを知りつつも必ず拍手喝采。まさしくスナック歌謡曲のお約束。所々に散りばめられた言葉遊びのセンスのおかげで、哀愁たっぷりの自虐的な歌詞もふんわり笑いに変わり、温かい気持ちにさせられます。きっと何年経ってもこの曲を聴くたびに、小さなカウンターを囲んで、みんなで笑いあった光景を思い出すでしょう。



井上タツ子さん
雑貨店[夜長堂]
紙ものを中心に、レトロモダンな雑貨を扱う[夜長堂]店主。天満に店舗兼事務所を持つ。BMC(ビルマニアカフェ)のメンバーでもあり、ビルだけでなく、歌謡曲や映画など古き良き昭和のムードをこよなく愛する。
<http://www.yonagadou.com>

MBS×月刊島民でお送りする誌上ラジオ、初オンエア！

昭和歌謡は中之島でしょ！

唄ってください、あの歌を。語ってください、あの頃を。中之島には歌がある。輝く昭和の時代がある。まずは、誌上ラジオ番組でどうぞ。

取材・文／松本 創(本誌)

月刊島民 ♪小雨そは降る御堂筋／うるむネオンの北新地／天満橋から流した恋は／水の都を浮き沈み…と、そんな歌はありませんが、なんだかそれらしいフレーズがスラスラ口について出るほど、中之島界隈と歌謡曲は相性抜群。街と人模様を彩った昭和の歌を紹介しつつ、歌に映る中之島を眺めてみようというのが今回の特集です。

誌上ラジオということで、ゲスト・パーソナリティーにお招きしたのは、毎日放送(MBS)の福島暢啓アナウンサー。25歳の若さにして、戦前、戦後の歌い手と昭和の詩情を愛する無類の流行歌好き。MBSラジオで『福島暢啓の昭和歌謡でしょ！』という冠番組も持つておられます。福島さん、どうぞよろしくお願いします。

福島アナ こちらこそよろしく申し上げます。宮崎県で生まれ育ち、大学時代は京都。大阪へ来てまだ2年の身ですが、歌の中の大阪や中之島には触れていますので、楽しみにしております。

月刊島民 ではさっそく、昭和歌謡を愛する方々に語ってもらった「私とシマのこの1曲」を紹介していきます。歌謡曲の情景といえは、まずは盛り場、そして酒場の恋ということで、北新地にちなんだ歌ですね。リクエストくださった井上タツ子さんは、北新地のスナックでアルバイト経験もあるそうです。

Request.1

福島アナ これはカラオケ映える歌ですよ。都会の中でも、知らない者同士が場を共有し、楽しむことができた、そして、お酒と歌が密接にリンクしていた時代の歌です。芸人さんの歌ですけど、内容はいたって真面目、言葉遊びも「バカ

な男の来た新地」と、さらりとしている。みんなが知っているお約束のギャグで最後に爆笑する、そのギャグが良かったのでしょうか。

月刊島民 福島さんは北新地で飲んだりしますか。福島アナ …いえ、若輩の身でして、それはなかなか…。



月刊島民 次の歌も「北の新地アボーイ」にはビーさんのことが描かれ、倍賞千恵子さんが演じたそうです。リクエストにある通り、背筋の伸びた、きれいな女性だったんでしょ。この歌については福島さん、どうでしょう。福島アナ これはいわゆるご当地ものですけども、歌い手も、作詞・作曲者も、大阪の人ではないんですね。いわば、外から見た大阪像が歌に託されている。それが大阪でも、こうして海外でも愛されているわけですから、大阪の街や人の懐の深さというのか、サービス精神のようなものを感じますね。

Request.2

月刊島民 なるほど。大阪の外というか、外国の人が書き、歌ったこの界隈の歌といえば、次のリクエストもそうです。ご存じ、新世界を拠点にする歌手の大西ユカリさんから。「昭和歌謡」をリバイバルさせた張本人でもあります。



続いてはこの曲です！

Guest Personality

福島暢啓さん MBSアナウンサー

1987年宮崎県生まれ。昭和歌謡や落語など古き良き芸能をこよなく愛する。即興で描く「ポンチ絵」という特技もあり、若手ながら異彩を放つ。「ちんぷいぷい」や情報バラエティ「知っとこ!」などに出演中。

昭和歌謡とは…

「歌謡曲」とは、戦前、盛り場に流れる卑俗な流行歌と区別するため、日本放送協会(NHK)が使い始めた呼称だが、現在では「J-POP」というジャンル誕生以前の、ロックやフォークなどを除いた流行歌全般を指すことが多い。2000年前後から、特に昭和30～40年代の流行歌を再評価する動きが現れ、「昭和歌謡」と称されるようになった。リアルタイムで聴いていない世代でも、「新しい音楽」として再発見し、愛好するファンは少なくない。

Request.2 凝縮された「大阪の心」、ハワイでも響く。 都はるみ『大阪しぐれ』(1980年)

ハワイ島にあるヒロという街から19号線を北へ車で1時間あまり走ると、ホノカアというノスタルジックな街がある。2009年に映画『ホノカアボーイ』が封切られ、この街が知られるようになったのでご存じの方もいるかも。ボクは、この何にもない田舎町へ毎年通った時期があった。古い友人であるニックと日系二世で80歳を過ぎたビーさんと逢うためだ。

ビーさんは80代にもかかわらず、背筋がピンと伸びたおばあさん。ニックの家の前の古い建物の2階がビーさんの部屋だ。いつものように大阪土産の[はり重]

の牛肉の佃煮を持って階段を上がり、部屋に入るとまず「アロハ」とやさしくハグしてくれる。そして、ボクの顔を見ながら決まって「オオサカボーイ、都はるみの『大阪しぐれ』唄いなさい」と。

「ひとりで生きてくなんてできないと…夢もぬれます あ、大阪しぐれ」ボクの下手な歌を涙浮かべて聞き入ってくれた。別れ際、ビーさんはいつも言ったものだ。「生きてたら、また会いましょうね」。

御堂筋から堂島川を眺めると、いつも亡くなったビーさんを想い出す。



森本 徹さん
CDショップ&バー
[ザ・メロディ]店主
東心斎橋にあるCDショップ
&バー[ザ・メロディ]店主。
ハワイアンを中心に広いジャンル
の音楽を聞き、その流行を通じて大阪の街・店
を見続けてきた。70年代から雑誌
にコラムを寄稿してきた書き手
でもある。



自分がこの素晴らしい文化を語り伝えなければ。そんな使命感を感じています

出会いはラジオからだった。

私の歌への入口は祖父母が持っていたカセットテープ、そして深夜ラジオでした。小学校1年の頃から藤山一郎、霧島昇、岡晴夫といった歌手、それに大阪出身の名作曲家、服部良一のメロディをこく自然に聴いていました。「歌謡曲」という言葉ができる前の、戦前の流行歌ですね。

福島アナが語る 私と歌と昭和の文化。

中学2年でNHKの番組『ラジオ深夜便』を聴くようになり、そこで出会ったのが、近江俊郎の歌う『黒いパイプ』。これがガツン！と来ましてね。なんとカッコいい、洒脱な歌があるんだらう、と。そこから本格的に昭和の歌にのめり込んで行ったんです。

流行歌というのは、同時代の人にとっては、自分の想いや当時の世相を重ねて聴くものですが、私にはそれがなく、まったく新しい音楽であり、接したことのない文化だったんです。同好の士？

当然いしません（笑）。独り黙々と音源を集めて聴き込み、やがて「自分がこの素晴らしい文化を語り伝えないと」、使命感を覚えるようになりました。

福島アナ推薦「中之島、この歌」。

『大阪音頭』 藤本二三吉 (1933年)

1番で大阪の全体を、2番では梅田、中之島などキタ界隈、そしてだんだん南に下る実にスッキリと行儀のよい構成で、歌詞を追うだけで楽しい名曲です。単純ですが、歌って楽しい戦前の流行歌を代表する名曲。現在はあまり聞く機会がないのが残念です。



『大阪繁昌ぶし』コロムビアローズ、保田幸司 (1956年)

こちらも踊りたくなる戦後の1曲です。「ハアー／景気北浜／天満までとどけ／金でどぶ池／梅田でしよか」と、1番では大阪の地名づくしで縁起のいい歌詞を歌っています。何かと暗くなりがちな現代人にぴったりの1曲ではないでしょうか。

MBSラジオ「昭和歌謡でしよ!」
毎週日曜 午後5時59分から放送中

ある1年をとりあげ、当時の世相や流行と共に、その年の歌謡曲の中からベスト5を選ぶコーナーや、リスナーの心温まるエピソードと共に曲を紹介する「想い出昭和歌謡」など、とにかく昭和歌謡づくしの1時間。番組では昭和歌謡にまつわるエピソードなども募集中。
<http://www.mbs1179.com/sh/>



Request.3

モダンで美しい御堂筋哀歌。 欧陽菲菲『雨の御堂筋』(1971年)

私、昭和39年(1964)のオリンピックイヤー生まれですから、物心ついた頃は高度成長真っ盛り、歌謡曲も黄金期のうるわしい時代でした。年子の妹と2人、歌手になりきる「歌ごっこ」やったり、富田林の地元スーパーのど自慢大会に出たりしててね。朱里エイコ、青山ミチ、和田アキ子…なかでも特に好きで、十八番にしていたのが、欧陽菲菲さんの『雨の御堂筋』やったんです。

男の人を追って、雨に濡れながら冬の御堂筋を歩く女の人の歌ですけど、富田林の小学生には、歌詞の意味や情景はわ

かれへん。でも何かモダンな、哀しくも美しい雰囲気を感じ取ってたんでしょうね。イントロを口ずさみながら登場して、歌い終わってお辞儀するところまで、完璧にやりきってました。

今もよう歌わせてもらいます。歌謡曲の伴奏を長年やってはったアロージャズ・オーケストラのメンバーとのライブでは必ずやりますし、数年前に新歌舞伎座のミュージカル公演に出た時は、欧陽菲菲さんの役をやらせてもらって、1カ月間毎日歌ってた。私にとって一番長く、大切に歌ってきた歌かもしれませんね。



大西ユカリさん
歌手

昭和歌謡とR&Bが絶妙にミックスされた「ソウル歌謡」で人気。はたるまのABCラジオのパーソナリティを務めたり、かつてあった「中之島レコーズ」からも作品をリリースするなど、中之島にも縁深い。

Request.3

月刊島民 ユカリさんはABCラジオで歌謡曲番組を持ってもらったぐらい、相当な歌謡曲好きなんです。が、ご自身のルーツである昭和40年代の歌には、特に思い入れたっぷりのようです。

福島アナ これは作曲がベンチャーズですから、かなりモダンで洋風な雰囲気ですね。当時としては目新しいスタイルの音楽だったんじゃないでしょうか。ロカビリーやグループサウンズの時代を経て、単なる外国の真似ではない「日本の歌謡曲」というジャンルがはっきり確立された時代だと思います。

月刊島民 福島さんはずいぶん若いですが、宮崎にいる時、この歌で御堂筋を思い描いたりは…。



福島アナ いえ、だいたいぶん後になって歌番組の映像を見たんですけど、激しく踊る女の人が大声で歌ってる姿が

衝撃的で、そこまでは…。月刊島民 ははは。では、最後の1曲。中之島といえは誰もが思い浮かべる定番で締めましょう。

Request.4

月刊島民 実は、月刊島民の創刊号で、この歌について調べたんですよ。オリジナルは1番の札幌のみでしたが、2、3番に大阪と長崎を加えた列島縦断式ご当地ソングに改作されて全国的にヒットした、と。

福島アナ いいですよええ、和製ブルース。私は、高橋勝とコロラティノの『思案橋ブルース』から入りましたが、これも長崎が舞台です。港や川のある街には人が行き交い、出会いがあつて、そして別れがある。大人の哀愁を帯びたムード歌謡のブルースが似合う情景ですね。中之島も、そんな詩情を誘うのでしょうか。



バッキー井上さん

漬物店[錦・高倉屋]店主
本業は京都・錦市場の漬物店[錦・高倉屋]。もう一つの顔は酒場ライター。夜ごと京都の酒場に繰り出し、コースターの裏にフレーズをつづる。その下地は、小さい頃に聞いた歌謡曲の歌詞だった。

Request.4

中之島と言えば、やっぱりこの曲。 内山田洋とクール・ファイブ『中の島ブルース』(1975年)

初めて聞いた40年ほど前、俺は中之島がどこにあるのか知らなかった。当時、お茶の間の中心にあったテレビからは歌謡曲が大人の耳にも子供の耳にもまんべんなく入ってきて、子供でも青江三奈の『伊勢佐木町ブルース』を口ずさめた。

その当時、なんとなかのブルースという歌が多かった。そして『伊勢佐木町ブルース』や『柳ヶ瀬ブルース』など地名とブルースが絡む歌が多かった。まだ子供だった俺は、ブルースというのはハスキーな声で歌う歌のことだと思っていたら、前川清が張りのある声で『中の島ブルース』を歌った。しかも札幌から長崎まで出てくる「中の島」でなんだ、と思った。

「港町ブルース」で全国の港町や岬を覚えた俺には、中之島という地名がくさびのように打ち込まれた。そして、歌謡曲から国算社理と大人の秘密を学んだ子供は今、壮年期の大人になって、今夜もまたスナックで水原弘や黒木憲ばりに歌謡曲を歌っている。歌うのは『赤と黒のブルース』。今聞いてしびれるのは三沢あけみとマヒナスターズの『島のブルース』だ。そしてこれはなにを書くべき文章だったんだろう。あー、というしかない。



管

見では、戦前に中之島界隈を主題にした大衆歌謡はほとんど見当たらない。戦前の大阪の大衆音楽（流行歌）といえは、やはり道頓堀のイメージが強い。その象徴はかの『道頓堀行進曲』であり、音楽面での最大の立役者は服部良一（うなぎ料理屋の出雲屋少年音楽隊出身）だ。近年、音楽研究の領域では「道頓堀ジャズ」という用語も定着しつつある。

戦後になっても、歌われる大阪は概ね船場以南に集中していた。『月の法善寺横丁』（1959年）しかり、『王将』（61年）しかり。あるいは、映画『悪名』と相まって大ヒットした鉄砲光三郎の河内音頭『民謡鉄砲節』（61年）を加えてもよいかもしれない。

しかし同じ時期に、中之島エリアを発信地とした新たな大衆音楽文化が形作られていたことは見逃せない。それは、近世以来の花街の伝統と大阪の庶民のかつ享乐的なモダンリズムの折衷の上に花開いた「道頓堀ジャズ」とは

なぜ中之島は「歌われる」のか？

昭和の歌を生んだ 中之島教養主義

輪島裕介 大阪大学大学院准教授



わじま・ゆうすけ
1974年、石川県金沢市生まれ。大阪大学大学院文学研究科音楽学研究室に在籍。専攻はポピュラー音楽研究、民族音楽学、大衆文化史。「演歌」のルーツと、「日本の心」といわれるまでになった『偽史』の成立過程を丹念に追った『創られた「日本の心」神話』（光文社新書）で、2011年にサントリー学芸賞受賞。



中之島が歌の舞台になるには理由があった。人々の音楽への関わり方や、ラジオ番組との相互作用など、戦後の社会的・文化的背景を手がかりに、気鋭の研究者が考察する。

大衆の趣味の向上を図る、ということだった。その路線は戦後、NHKの「ラジオ歌謡」「みんなのうた」に引き継がれ、「ABCホームソング」でも、同様に「格調の高い」大衆歌謡が目指されていた。

●

若者の鬱屈と
「都会の玄関」中之島。

「ABCホームソング」から生まれたヒット曲に、仲宗根美樹「川は流れる（61年）、北原謙二「ふるさと」の話をしよう（64年）がある。この2曲は同番組の（ひいては「中之島教養主義」の）支持層を考える上でも興味深い。

前者は番組で流れたあと、EP盤（「ーナツ盤」）のB面に収録され、歌声喫

対照的に、「中之島教養主義」とでも呼ぶたい生真面目な側面をもっていた。代表格が、フェスティバルホールやサンケイホールを活動の中心とした音楽鑑賞団体の大阪労音（大阪勤労者音楽協議会／49年設立）であり、月替わりのオリジナル楽曲を放送する朝日放送のラジオ番組「ABCホームソング」（52年〜72年）だった。

●

大阪労音と
「ABCホームソング」。

大阪労音は、「良い音楽を安く」聴くことを目指す会員制の団体で、大阪が先駆となって全国に同種の組織が結成された。60年代の最盛期には全国で会員数65万、大阪だけでも15万を数えたという。そこでの「良い音楽」とは、当初は基本的に西洋芸術音楽（クラシック）であり、レコード会社や映画会社が作り出す商業主義的な音楽を「悪い」とみなしていたが、徐々に大衆的な音楽形態（ただしタンゴ、ジャ

ズなど、当時「ポピュラー」と呼ばれた「舶来」のそれ）も取り入れるようになる。さらには、ステージ鑑賞のみならず、独自にミュージカルや公演（例会と称された）を制作し、そのためのオリジナル曲を創作するようになる。

現在では日本のスタンダードの地位を得た「見上げてごらん夜の星を」や『夜明けのうた』はそうして作られた楽曲である。そして、興味深いことに、この2曲を作曲したいずみたくは、前述の「ABCホームソング」が主催した一般公募コンクールで入賞し、職業的な音楽家のキャリアを開始している。

放送局のオリジナル楽曲を帯番組で流すというアイディアは、戦前の36年放送開始の日本放送協会「国民歌謡」にさかのぼるが、元をたたせば大阪放送局（JOBKラジオパン、オーサカ、馬場町、角っこ）が「新歌謡曲」として独自に企画した単発番組が東京放送局にパクられ、もとい、めでたく全国進出してレギュラー化したものだ。

「歌謡曲」という用語の普及（レコード会社は「流行歌」という語を用いており、「歌謡曲」は基本的に放送用語だった）においても大きな役割を果たしたこの番組は、ほどこ軍国的・愛国的な内容に傾いてゆくが、当初の目論見は、レコード会社が作る「低俗で退廃的な流行歌」に対抗して、「健全で家庭的な歌謡」を提供することで

当時、集団就職の若者たちは大阪市中央公会堂に集合し、訓示を受けたという。「南」から大阪に出てきた若者たちにとつての中之島は、「北」から東京にきた若者たちにとつての「上野駅」に相当する「大都会への玄関口」だったといえる。

●

クラブ「アロー」と
2人のラテン歌手。

こうした「中之島教養主義」の健全な音楽文化とも重なりつつ、「夜」のイメージをも湛えた存在として、アイ・ジョージと坂本スミ子がいる。この2人は、59年に堂山町に開店した当時の大阪で最高級のクラブ「アロー」の専属歌手出身。トリオ・ロス・パンチョスの前座を務めて名を上げ、その後もラテン音楽を主要なレパートリーとした。

61年には、クラブ専属の「北野タダオとアロー・ジャズ・オーケストラ」の「ドドンパ」の流行を仕掛け、トリスイスキのCMに使われたこともあって（短期間だが）ブームを巻き起こした。「大阪人はラテン系」という、なんともざっくりとしたステレオタイプは、もしかしたらこの2人のラテン歌手に負う部分もあるかもしれない。

アイ・ジョージは「アロー」以前は北新地でギター流しをしており、ハイカラな外国曲ばかりを歌う異色の存在

『大阪のうた』に読む 中之島

1982年に出版された『大阪のうた』（大阪都市協会）という本がある。昭和の歌謡曲、民謡、唱歌などから大阪にまつわる469曲を集め、歌詞を採録した労作。これをテキストに、中之島がどう歌われてきたかを眺めてみよう。

文／松本 創（本誌）



曲名はやはり 南高北低。

同書収録の歌のタイトルに含まれる地名は「大阪」が断トツの200曲、「浪花」が61曲で続くのは当然として、地域別では次の通り（略称・愛称や名所も含む）。

①道頓堀17曲 ②御堂筋7曲 ③船場6曲 ④曾根崎・心斎橋5曲 ⑤通天閣4曲

やはり南高北低の傾向。「中の島ブルース」は、大阪の歌と認定されていないように、中之島はゼロ。界限では、北新地と北浜が3曲と健闘。また、意外や持ち歌に大阪ものが多かったフランク永井同書には14曲収録の『堂島』、吉永小百合が紅白で可憐に歌った『天満橋から』などの大ネタもある。



大阪巡りに 欠かせぬ場所。

しかし、「大阪」や「御堂筋」の名を冠した歌は、キタ・ミナミ間の地名を散りばめるパターンが多く、中之島や淀屋橋、北新地は、かなりの頻度で登場する。代表的な2曲を、歌詞とともに紹介しよう。



『大阪ブギウギ』 笠置シズ子(1948年)

*日本ポップスの父、服部良一と「ブギ」の女王、笠置シズ子。戦後復興期にブギ・ブームを巻き起こした大阪出身タッグによるご当地ブギ。〈ほんまそやそや／そやないか／大阪ブギウギ／道頓堀から御堂筋／リタク飛ばしてアベックで／川風涼しい中之島…〉



『たそがれの御堂筋』 坂本スミ子(1967年)

クラブ「アロー」から出たラテン歌手の歌謡路線ヒット。10年後にはディスコ・アレンジ(!)で再録音。〈銀杏並木の御堂筋を／肩を並べて二人きり／もっと歩こう中之島／川の向こうにネオンの灯り(中略)今夜もここで別れましょう／ビルの谷間の淀屋橋〉



なぜいま「海の大阪」なのか。

水都って、川沿いにおしゃれなカフェがあるだけの都市のことでしょうか？
もちろん水辺の快適な空間は大切ですが、
水都ってというのは生活や産業が海や川と密接につながった都市のこと。
そして大阪はもともと海辺の街として発展してきた都市、
そして実際の大阪は今でもちゃんと海の都市なのです。
水都大阪という言葉が定着してきつつあるなかで、
川だけではない、海の大阪を通して水都の本質に迫ります。

◎今月の講座（テーマ・講師）

最終回 2/8（金）※講座内容は、月刊島民3月号に掲載予定です。

「大阪港から生まれた商社」



松本一晃・藤原一雅

大阪港の開発から発展した、
異色の生い立ちの住友商事について、
商社誕生秘話とともにお話させていただきます。

「港に住むということ —築港に引越してみて—」



高見恒祐（IAOプランニング&デザイン）

港は元々住む場所ではないのか？
市街地の住まいと違うのか？ 果たして住み心地はどうか？
港に1年住んでみたメンバーからの報告です。

「港的風景をゆく(6) 咲洲 —港湾風景の現在形—」



山納洋（大阪ガス）

コンテナリゼーションが進んだ咲洲の港湾。
ヒューマンスケールを超える風景と、希薄なヒトビト感。
この町の港的風景は、どこに見出せるでしょうか。

◎概要

時間／7:00PM~8:30PM

会場／淀屋橋odona2階「アイ・スポット」大阪市中央区今橋4-1-1

受講料／無料

定員／30名（当日先着順）

主催／都市大阪創生研究会ワーキンググループ

協力／ナカノシマ大学事務局

お問い合わせ／☎06-6949-1911（事務局）

連続講座

「海の大阪」

都市大阪創生研究会では昨年度の活動として、大阪と海の間をみつめなおし、生活や産業のなかでの水都大阪を探検してきました。あまり認識されていないけど大阪はやっぱり海の街なのです。だからディープな海の物語がたくさんあるんです。そのなかからとっておきの「海の大阪」を、全6回でお伝えします。参加費は無料。多数の参加、お待ちしております。

◎平成10年にスタートした都市大阪創生研究会は、行政と民間のパートナーシップによって新しい時代に向けての都市のリノベーションを実現するため、大阪の未来として入るべき道を考える場として活動を続けています。



◎「盛り場」の変容と「ブルース」の隆盛。

このように2人ともハイカラな本格派としてステージや放送で大活躍したが、その数年後にはドメスティックな「夜のムード」に転じてレコードのヒットを出す。アイ・ジョージは志摩ちなみとのデュエット「赤いグラス」（65年）、坂本スミ子は「たそがれの御堂筋」（67年）。特に後者は「雨の御堂筋」「大阪ラブソング」、さらには「梅田からナンパまで」なども含む、御堂筋を走る歌謡の戦後における草分けではなからうか。

◎「ご当地ソング」と「演歌」の後に。

北新地も、やがてこうした全国的な

これは単に彼らの路線変更、あるいは「家庭向き」の放送と「巷の歌」であるレコードの差というだけではなく、夜の盛り場の変化とも関わっているように思える。

どういうことか。キター中之島に引きつけて言えば、洋酒をバーカウンタリーやボックス席で飲む外來風の盛り場とは、かつての「アロー」のように、「一般庶民には到底手が届かない」最高級の舶来文化を堪能する場所」であったのが、一般の社用族あたりでもなんとか手が届くようになっていった、ということではないだろうか。

そして、初期のアイ・ジョージや坂本スミ子が売りにした「いかに」な舶来性は後景に退き、もはや外來であることさえ意識されないほどに土着化した洋風盛り場文化が全国の地方都市を席巻する。そのサウンドトラックが、60年代半ば以降に隆盛を見るブルース調（服部良一が発明した昭和10年代当時最先端の和洋折衷サウンド）の「ご当地ソング」であった。札幌、長崎と並べて歌われる「中の島ブルース」（75年）は、中之島の固有性よりもむしろ、各都市の盛り場の互換性をあらわしていた、といえる。

つ中央集権的な「ご当地ソング」の波に吞まれていく。一つのきっかけは大阪万博の70年に発表されたザ・ピーナッツ「大阪の女」だろう。北の新地での、酒を介した男女の出会いと別れが、これまでハイカラなイメージを振りまいてきたザ・ピーナッツには珍しい、いかにもな「演歌調」で歌われる。さらに時代が下ると、ご当地ソングは、もともとの和洋折衷という出自をより一層隠して「演歌」（もしくは「ド演歌」）として様式化される。北新地、堂島、曾根崎を舞台に、おそらく水商売と思われる女性の実らぬ恋をステレオタイプ的に歌った都はるみ「大阪しぐれ」（80年）がその代表だが、ここでは、前述した「大阪の女」の「幸せそれとも不幸せ」という歌詞が引用されている。

「ご当地ソング」や「演歌」は、高度経済成長後期からオイルショックを経て、バブルまでの「盛り場のサウンドトラック」であり、現在では、その存在意義をあまり見出しにくい。だからといって、単純にそれ以前、つまり戦後初期から高度経済成長前期の「中之島教養主義」的大衆音楽文化への回帰を説くつもりはない。しかし、「ご当地ソング」や「演歌」の誕生以前、中之島において独自の大衆音楽文化が確かに築かれていたという事実は、いま一度見直されてもよい。

ひと『大阪の女』ザ・ピーナッツ（1970年）

北新地の変容と「演歌調ご当地ソング」の始まりを告げた1曲（上記、輪島氏の論参照）。曲がり角は万博か。くまで私を責めるよに／北の新地に風が吹く／もっと尽くせばよかったわ／わがまま言って困らせず／泣いて別れる人ならば）



『浪花の勝負師』三波春夫（1963年）

北浜を駆け抜けた風雲の相場師にして中央公会堂の寄進者、岩本栄之助の生き様に勝負師の心意気を重ねる。《誰がとめよと公会堂にゃ／俺の親父の夢がある／花の浪花のあの中／島／水に姿を映すまで》



今も変わらぬ？ あの情景。

川と橋、水面に映るネオンの灯、公会堂に散歩道、それに鳩の群れ……。歌に描かれる風景は今も中之島界隈に残っているが、行き交う人びとの心象はどう変わったか、あるいは変わっていないのか。演歌調ご当地ソングを歌詞とともにどうぞ。

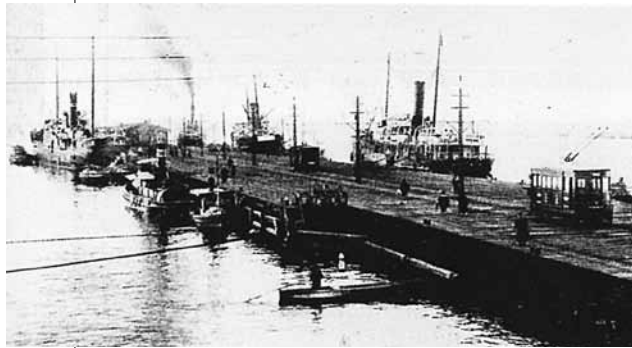


1 / 16 第5回講座をふり返って

港に関わる交通と言えば船を思い浮かべるであろう。しかし、港の発展を支えたのは、船だけではない。電鉄も大きく関わっているのである。ここでは影で支えた二つの電鉄を紹介したい。

大阪市電の起り。

その一つは大阪市電である。明治36年（1903）、日本初の公営路面電車として、花園橋西詰―築港棧橋間を開業した。大阪市電の開業は、「港」行きだったのだ。何故、こんなところに路線を引いたのだろうか疑問がわ



築港大棧橋と市電（『おかげまで大阪市営交通創業100年 これからもよろしく』）

てくる。当時、この築港は日本で初めて市が建設・運営する港として、開港したばかりであった。「せっかくオープンしたのだから、そこまで来てもらわないともったいない」、大阪ならではの考えがあったのではないだろうか。実は、開業当初、この路線は、遊覧電車として使われていた。二階建て列車の運転台の前に釣竿入れをサービスしたこともあり、連日大勢の釣り人が利用していた。その後、周辺に娯楽施設が出来たこともあり、二階建て電車は、通称、「魚釣り電車」「夕涼み電車」と呼ばれていた。当初の目的は異なっていたのかもしれないが、十分役割を果たしていたのである。

「市営モノロー主義」とは。

さて、市内交通には「市営モノロー主義」という考え方があった。一言でいうと、市内の交通に私企業は手を出さなという方針である。中長距離の交通は国鉄が、都市近郊や近距離都市間の交通は民営鉄道が、都市内の交通は市などの公営交通がそれぞれ担当するという役割分担を徹底させたものであり、市内交通を営利企業に任せず、市民の利益が最大となるよう市営にて行

近代大阪の港と交通

大西隆太
(阪神電気鉄道)

う考え方である。具体的には、現在のJR大阪環状線の内側には、私鉄は入れさせないという施策であった。現在の各私鉄の拠点駅（阪神電車、阪急電車の梅田駅、京阪電車の淀屋橋駅、南海電車の難波駅、近鉄電車の上本町駅）をみると環状線の内側を通過しているものはない。

阪神なんば線の礎。

二つ目の鉄道は、この市営モノロー主義の影響を受けた阪神電気鉄道の話である。明治43年（1910）頃のこと、関西における先私営電鉄会社としての阪神電気鉄道は、後発の競争相手に対してさまざまな対抗策をとる必要に迫られていた。また、大阪・神戸間の輸送人員も増加傾向にあり、阪神間を別ルートにてつなぐことで、輸送力増強しようと計画を進めていた。

一方、湾岸部は、やがて「東洋のマンチェスター」と呼ばれるように、目覚ましい発展の段階であった。阪神電気鉄道は湾岸部へ入り込みたかったに違いない。事実、六軒屋川と安治川に挟まれた西野田兼平町（現在のJR野田駅と西九条駅のほぼ中間付近）を経由した船津橋駅を大阪側の終点として、



明治42年(1909)地形図より

路線の免許申請を行っていた。この周辺は、明治30年（1897）に進出した住友伸銅所などをはじめ商工業の集積地として、かなり活況を呈していた。しかし、市電の敷設計画にも同地付近が含まれおり、兼平町から船津橋間の路線が阪神電車と平行することになる。市営モノロー主義のこの時代、阪神電気鉄道は泣く泣くこの区間をあきらめたのではないだろうか。免許申請の区間を千鳥橋駅までとし大正13年（1924）に大物駅から千鳥橋駅間を開通させることとなった。

その後、千鳥橋からなんばまで延伸し、現在のなんば線となる。現在、神戸・難波・奈良をつなぐ阪神なんば線、現在の路線になるまで、このような紆余曲折があったのだ。千鳥橋から船津橋間が許可されていれば、現在のなんば線は違った形になっていたのかもしれない。

1 / 16 第5回講座をふり返って

多彩な水辺を
軽やかに結ぶ小舟。

10人乗れば満員という小さな船の船長をしている。もとは天草の海で真珠の養殖作業に使われていたという幅広の船に、広いウッドデッキと小さな建屋を備えた小さなハウスボートのような船だ。小さいながら、結婚や還暦を祝う会が行われたり、写真教室や句会の場になったこともある。茶釜を置いて茶会を催すこともある。折り畳み自転車を積むこともある。

これだけいろいろな楽しみ方をしていただけるのはなぜか。もちろん船そのものの工夫もしているが、何より大阪の水辺の風景が非常に多彩なことが大きい。穏やかな時間を過ごすなら中之島を背景に、盛り上がりたいたいなら道



船上茶会をする時には、デッキに茶釜を設置。

頓堀へ、港エリアだったらワクワク感満点ですよ……といった具合だ。もちろんその水路はひと続きであり、小回りの利く小舟はそれらをスイスイと結ぶことができる。

1つの船で2つの場面を。

約2時間で都心部と港湾部を往来する「ドボクルーズ」の謳い文句は「港の大きな橋や水門、工場などを眺める」だが、このコースで肝心なのは、港にたどり着くまでの風景と港の風景、その2つの場面を同じ船の中で体験して頂くことにある。

大川（旧淀川）にある八軒家浜を出て中之島界限を下る。特に戦前に作られたビルや橋梁は陸から見ると以上に美しい。川からの視線を意識してデザインされているからで、いかに船の往来が多かったかが想像される。そして船津橋、端建蔵橋から先は、くつきりと線を引いたように「港」の顔が見えてくる。以降の安治川には桁下高が10m超の規模の橋がほとんどで、大きな船が直接川を上がってこられる。それに合わせた陸の設備――倉庫街、クレインやらコンテナ――が風景を作っているからだ。さらに川を下って港大橋や

船長から見た大阪港と川

中野弘巳
(御舟がもめ)

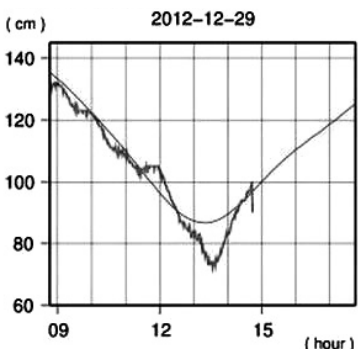
手前は環状線の鉄橋、そして奥は安治川の水門。

天保山ジャンクションの姿を見上げると、淀屋橋や大江橋の架橋から半世紀足らずの間に建設されたものとは思えない技術の飛躍が実感される。

この間およそ1時間。極端に様子の違う、しかし、川も海も「ひと続き」の道として生きているからその景色に遭遇することになる。

都心の水辺に、川と海を見る。

私はサラリーマンをしていた10年ほど前から川辺に暮らしている。窓から



潮位変動の例(海上保安庁のホームページより)

の景色だけでも川と海のつながりは実感できる。例えば潮位変動は発見しやすい現象かもしれない。都心部の河川でも大潮の日には6〜7時間で最大1.8メートルほど水位が上下する。時に川は逆流するし、潮の向きによつては船の燃料の減り方が倍近く違う。汽水域に生きる魚類も、そのつながりを感じさせてくれる。ボラ、スズキ、マハゼ、チヌ（クロダイ）などが中之島界限にも数多くいる。ボラなどは、しょっちゅう水面を跳ねているので釣りなどをしなくても目撃している方は少なくないはずだ。

水位が高く、都心の低い橋がくぐれずに困るような日には、彼らのように海と川を自由に往来してみたいものだと、つい考えてしまう。

1 / 16 第5回講座をふり返って

港的風景をゆく(5) 北加賀屋(住之江区)——産業化遺産とクリエイティブ・ビレッジ(山納洋(大阪ガス))

北加賀屋の交差点角にある「山長酒店」。かつては店の前を路面電車が走り、造船所で働く人たちが賑わった。店の南側には住宅街に斜めに入る路地があり、廃業したスナックや小料理屋が立ち並ぶ。その一角にある喫茶店で、こんな話を聞いた。

「この道はヨシ原を貫いて造船所に向かう一本道で、辺りのお店では造船所で働く人たちを集めていた。ドックには頻りに外国船の修理が入り、外国人乗組員が辺りをウロウロしていた。そのためか、近所のお店では、店先に置いていたパン・タバコ・果物などがよく無くなった。外に置いてある扇風機や洗濯機をとられたところもある。とにかく治安の悪い町だった」

造船業の発展で、国内外から注目。

木津川筋に造船業が発達したのは、明治末から大正初期のことである。今東光の小説『悪名』に、こんなくだりが出てくる。

「安治川口の佐野安造船所って知ってあるやろ。あそこ旦那の出世の振り出しは船大工や。和泉大津の浜育ちが、安治川口に出て船大工となったが、

あないな伝馬船ばかりこさえてたらあかんと考え、ボートやモーターボートをこさえたんや。それから帆船を手がけ、今では鉄船ちゅうわけや。な人間、志を立てたら船大工から今では二千人級の汽船を作らるんや」

サノヤス・ヒシノ明昌の創業者・佐野川谷安太郎は、明治19年(1886)に泉佐野で生まれ、小学校卒業後に大阪に出て、木津川筋で船大工の棟梁の内弟子となった。安太郎はこの地で6年間修行した後、上京。各地の造船所で技術を磨いた後、明治44年(1911)に木津川口に佐野安造船所を設立している。その後、第一次世界大戦の勃発により世界的な船舶不足が起こり、国内外から注文が殺到した。

以後数十年間、木津川筋の造船所の発展は続き、川筋三社と呼ばれた佐野安・名村・藤永田造船所には、最盛期



今東光「悪名」



名村造船所跡にできた、クリエイティブセンター大阪。

元造船工場にアーティストが集う。

川筋の発展をもたらした船舶の大型化は、やがてはその衰退の要因ともなった。川幅200メートルの河口部で

には2万人が働いていた。

は4万トン級の船を進水させるのが限界であり、大型化がさらに進んだ段階で、川筋の造船所はその役割を終えた。名村は主要工場を佐賀県伊万里市に移し、昭和54年(1979)に大阪工場を撤収。藤永田は三井造船に吸収合併され、現在工場跡地では子会社がディゼルエンジンや産業機械を製造している。サノヤスは主要工場を岡山県の水島製造所へ移し、大阪は修繕工場として残されている。

工場撤収後、長らく休眠状態となっていた名村造船所跡地は近年、アトスベイスとして再生されている。一帯の地権者である千島土地は「北加賀屋クリエイティブビレッジ構想」を掲げ、工場や住宅の借地返還の際に引き取った建物をアーティストやデザイナー・建築家などのクリエイターに提供している。近代化産業遺産である広大な造船所跡は、新たな時代の創造産業の孵化器として、新たな役割を担いつつあるようだ。

主催／朝日新聞社

言葉ほぐし

哲学者
鷺田清一さんの
対談シリーズ⑤

哲学者で大谷大学教授の鷺田清一さんをホスト役に、芸能、スポーツ、ジャーナリズムなど様々な分野で活躍する関西ゆかりの女性たちをお招きします。



©KENTA AMINAKA

ELLIE OMIYA 映画監督、脚本家。作家、演出家、CMプランナーとしても活躍中。1975年大阪生まれ。広告会社勤務を経て、2006年に独立。映画「海でのななし。」で映画デビュー。主な著書に「生きるコト」(文春文庫)など。テレビドラマは「サリマンNEO」(脚本参加)のほか「木下部長とボク」(文春文庫)「デカ黒川鈴木」(三毛猫ホームズの推理)など。ミュージックビデオ監修は「群青」(スピッツ)「男女6人物語」(ケツメイシ)。2012年2月に言葉とインスタレーションの個展「思いを伝えるということ」展を渋谷で開催し1万2千人を動員。その後、札幌と京都で4千人を動員し、さらに3月30日より、せんだいメディアテークにて巡回展を行う。またその第2弾「生きているということ」展を1月25日～2月18日 渋谷PARCO MUSEUMにて開催。他、1月18日～2月24日EYE OF GYREにて、絵と写真による個展“A HOUSE OF LOVE BY ELLIE OMIYA”を開催する。

第5回ゲスト 大宮エリーさん(映画監督・脚本家)
テーマ「思いを伝えるということ」

未来が見えない、不透明な時代を生きる私たち。さまざまな環境の変化の中、ともすればこころがくじけそうになりがちです。新しい年、いかがおすごしですか。

この対談では、「気になる言葉」「ひっかかる言葉」をとりあげます。その「言葉」をほぐすことで時代をほぐし、困難を乗り越えていく明日の元氣につなげていきたいと思います。

シリーズ5回目のゲストは映画監督で脚本家の大宮エリーさん。テーマは、「思いを伝えるということ」です。大宮さんはNHK異色番組「サリマンNEO」に脚本参加をし、注目を集めました。いま、「思いを伝えるということ」展に取り組んでおられます。「伝える」をめぐる語り

●これまでの「言葉ほぐし」ゲスト



第1回
(2012年5月26日)
麻生祐未さん
(女優)
テーマ
「演じ分ける」



第2回
(2012年6月15日)
増田明美さん
(スポーツジャーナリスト)
テーマ
「がまん」



第3回
(2012年10月27日)
黒川 徹子さん
(ノンフィクションライター)
テーマ
「『わかる』ということ」



第4回
(2012年11月24日)
津村 記久子さん
(作家)
テーマ
「『働く』ということ」

定員
250名
(無料)

日時 2013年2月26日(火)

開場 18:30

開演 19:00(終了予定21:00)

※会場へは聴講券をご持参ください。

場所 イシハラホール

(大阪市西区江戸堀1-3-15新石原ビル)

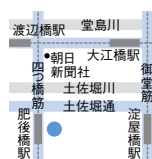
申し込み方法

参加ご希望の方は、名前(1枚に1人)、郵便番号、住所、年齢、電話番号を記入し、はがき(〒530-8211(住所不要))か、メール(sq-sybox@asahi.com)で、朝日新聞関西スクエア「対談シリーズ・言葉ほぐし⑤」係へ[2月8日(金) 必着]

※応募多数の場合は抽選し、聴講券の発送で発表にかえさせていただきます。※お寄せいただいた個人情報は聴講券の発送のみに使用させていただきます。

◎お問い合わせ／朝日新聞朝日21関西スクエア

☎06-6201-8450(平日10時～17時)





「へ、へえ。それがさっぱり分かりまへんね。(略)
突然、きよりましてんけど、娘が死んだんで詫びがどうの、
香典がどうの。酒屋やったら茶より酒やろ、とか言うて、
ほんで、ぶわあなって…」
(町田康「告白」より)



「解ってる、教授の椅子は、
そんな運動だけでは
取れんと云いたいやろ、
けど、虎も狼も、金次第で退治
出来んこともないやろからな、
まあ、任しとき」
(山崎豊子「白い巨塔」より)



「あんたは、やっぱり
俺らとは別世界の
人間や……」
(高村薫「黄金を抱いて翔べ」より)

◎今月の授業

【大阪弁】

2013年3月講座

「大阪弁と小説のいい関係」

講師／久坂部 羊 (作家・医師)

金水 敏 (大阪大学大学院教授)

物語の中の「役割」が
あるって、ほんま？

「今ちょっとええかな
いつもの歯切れのよい
関西弁で訊ねながら、
すぐに用件に入りたそうに
押しつけがましきだった。
(久坂部羊「神の手・上」より)



気さくで、あけすけで、ちょっとコワイ？
小説に登場する大阪弁の「役割」について、
現役作家と研究者が、本を読みながら語り合う！



小説やドラマで大阪弁を話す人物が登
場する時、その言葉があるキャラクター
を連想させることがある。気さくで話し
上手で裏表のない人物が大阪弁を話すこ
とはよくあるし、ずけずけと厚かましく
ものを言うややガラが悪い人物が大阪弁
であることも多い。あるいは大阪が舞台
ではないのに、「商売人」だけがなぜか大
阪弁を喋っているケースもある。このよ
うに話者の性格や職業・年齢などと深く
結びついた言葉は「役割語」と呼ばれる。

老人の話す「そんなんじゃ」、マダムの話
す「そうですわよ」などが典型的な例だ。
この役割語の面白さを常々意識してい
たというのが小説家の久坂部羊さん。「小
説でも役割語はよく使いますが、イメー
ジを作りやすい反面、お手軽になる危険
もあるので諸刃の剣です」と久坂部さん
は話す。対談のお相手は言語学研究所の第
一人者で、役割語の概念を提唱した金水
敏先生だ。講座では実際に大阪弁を上手
く活かした小説作品を読みながら、役割

くさかべ・よう
小説家・医師。大阪大
学医学部を卒業後、勤
務医、在外公館での医
務官などを経て、2003
年「廃用身」で作家デビ
ュー。医療の問題点を
浮き彫りにする「医療ミ
ステリー」で人気を博す。

きんすい・とし
大阪大学大学院文学
研究科教授。古典語か
ら現代語まで、日本語を
幅広く研究。役割語研
究の先駆者であり、著
書に『ヴァーチャル日本
語 役割語の謎』などが
ある。

語の利点と欠点など奥深い役割語の世界
にもご案内。本を読んだり、ドラマを見
るのも楽しくなる対談です！

「大阪弁と小説のいい関係」

日時／2013年3月19日(火)
7:00PM～8:30PM頃(開場6:30PM～)
会場／愛日会館
受講料／1,800円
定員／100名
主催／ナカノシマ大学事務局
協力／大阪21世紀協会

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もし
くはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスに
ついては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してく
ださい。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え
下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学3月講座」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら！→



お問い合わせ ☎06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

ナカノシマニア

取材文／大迫力(本誌)

タ

ワーマンションがどんどん完成
し、新しく移り住む人が増えつ
つある中之島。その中には小さい子供
と若い夫婦という世帯も意外に多いよ
うだ。それを実感したのは、昨年末に
開かれたとある餅つき大会だった。

現在、中之島3丁目で建設中の「三
井ガーデンホテル大阪中之島」(仮称)。
年も押し詰まった12月28日、施工を担
当する清水建設が地元町内会に呼びか
け、工事現場での餅つきが実現した。

「日頃、みなさんには大変ご迷惑を
おかけしております」と、現場監督・
杉本雅史さんのなんとも謙虚なあいさ
つでスタート



すると、つき
たてアツアツ
のお餅がどん
どんテーブル
へと運ばれて
くる。お餅を
頬ばりながら
自然と住民同

士の会話も弾み、白の前には餅をつい
てみたい子供たちの行列が。そしてそ
れをスマホで写真に撮るお母さん……と、
オフィス街の工事現場とは思えぬ和や
かムードだった。



上／建設会社の方に手を添えてもらい、餅つきに挑戦するちびっ子たち。初めて見る
杵や臼に、みんな興味津々。下／つき上がった餅を小さく丸めていく。この日の餅
つきはなんと20臼以上。持って帰って正月のお雑煮にした人も多かったようだ。

餅つき大会で、 島民の絆が深まった。

も
とと中之島の町内会では、毎
年の年末になると餅つき大会が

行われていたが、世帯数の減少や役員
の高齢化によって中断していた。しか
し、清水建設社内の有志によって一昨
年に復活。昨年から古くから住む町
内会の面々と連携して、新しく中之島
に移り住んだ人たちが招待することに

した。「建物を建てるだけでなく、地

元の方々との距離を近くしたかったん
です」と杉本さんは語る。

参加した人たちにも大好評。「マン
ションに住んでいてるけれど、ふだんは
帰りも遅いしあまり他の人たちと顔を
合わせないから、行ってみようかと思
って」「子供が『お餅つきしたい！』
って言うので(笑) こういう交流の機

会があると良いですね」。若いお母さ

んたちからは、次々に地元でのつなが
りを深めたいという声が続いた。人
を集めたり、お餅を丸めたりといった
お世話役の町内会の面々も、恒例行事
の復活に嬉しそうだった。

新しくできる建物がきっかけとなっ
て、古くから住む人と新しく住み始め
た人がつながる。変わりゆく中之島の
今を象徴しているようだ。



昭和9年(1934)に製造された京阪特急「びわこ号」。引退から約40年、かつての名車を寝屋川市にある京阪電車の車庫内に復元して、現在、なにわ橋駅構内にある「アートエリアB1」では、「びわこ号ミュージアム」展を開催中。びわこ号の写真パネルやスケッチ、またこの復活プロジェクトをPRするためにデザインされたヘッドマークの実物展示、さらには京阪沿線の主要駅の今昔を比較した写真展示など、電車好き

京阪特急「びわこ号」の期間限定ミュージアム



びわこ号復活プロジェクトギャラリートレインヘッドマーク。会場では実物を展示。

トウニン月報

2013年2月1日発行

びわこ号ミュージアム

2月15日(金)、17日(日)には特別イベントも開催。詳細は寝屋川市の「びわこ号復活プロジェクト」のホームページを参照。
期間/2月23日(土)まで
時間/12:00PM~7:00PM
休館日/月曜(祝日の場合は翌日休)
会場/アートエリアB1
入場料/無料

きまもろん月刊島民ファンにもなじみ深い展示が目白押しだ。当時としては最新の技術を注ぎ込み、経済産業省認定の近代化産業遺産でもあるびわこ号。その復活のためにぜひ会場へ足を運んでプロジェクトを盛り上げよう。(大迫力・本誌)

昨年11月28日にオープンした中之島フェスティバルタワー1階の「OVE中之島」で「散走」がスタートする。散走とは、こちらが提案している自転車を使った街の楽しみ方



自転車に乗って中之島を散走しよう！

のこと、目的地向かう手段として乗るのではなく、散



歩のように気軽に楽しもうというもの。1月には会員限定で開催したが、今からは誰でも参加できるようになる。

中之島にあるショップをスタート地点に、川沿いを走って大正区や此花区まで走るコースは、その名も「渡船散走」。渡し船に乗って川を渡り、ベイエリアを目指す。途中休憩を挟みながら、朝



ライフクリエイションスペース OVE中之島

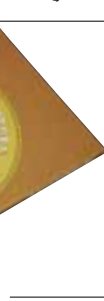
今回は2月16日(土)。走るコースなどはホームページを見るかショップに問い合わせを。申し込みはホームページの専用フォームのほか、電話、メールでも可能。☎06-6223-2626 <http://www.ove-web.com/> nakanoshima/

アを教えてくれるコラムが挟まれているという、ちょっと笑える仕掛けも。広く読んでほしいと、この本を月刊島民読者に進呈してくれたことに。ご希望の方は、住所・氏名・連絡先を明記し、月刊島民プレス宛(P19右下に記載)にハガキかファックスで、連絡を。(大迫力・本誌)

大阪日伊協会の半世紀をまとめた1冊を進呈

大阪日伊協会

この春開催されるイベントとしては、3月26日(火)に、竹下・ルッジェリアンナさんの昼食会つき講演会「イタリア人と絆」をリーガロイヤルホテルで開催。シチリア島出身で、現在、京都市立大学で京都府警察署署長を主として持つ個性豊かな経歴の持ち主。一般の方でも参加できるので、まずは問い合わせを。☎06-6457-4340



ちよと、隣のビルまで。

取材・文/大迫 力(本誌)

第20回

graf studio

カフェ、ショップ、工房、倉庫…
いろいろ要素がはみ出した、自由な空間。



家具と一緒に置かれている器や本も、買うことができる。



入口そばのカフェスペース。コンプレックスなど食材も販売。



おと、びっくり。ショップの天井部分はストックの倉庫。



今までにgrafが手がけた店舗や住宅デザインのパポートフォリオ。

中之島でワン&オンリーのものをづくり続ける「graf」が、昨年11月に移転した。同じ町内での引っ越しだったが、ショップの雰囲気は大きく変わった。フロアごとにギャラリー、カフェダイニング、ショップと分かれていたが、新生「graf studio」の1階は、それらがすべて一緒になったような境目の曖昧な空間になっている。

「僕たちはデザインや設計をするチームと、カフェや食について発信するチーム、そしてショップを運営するチームに分かれている

んだけど、前はその役割が固定されていくような感覚があった。そうじゃなくて、みんなが集まる一つのプラットフォームをつくって、セクションを超えた働き方ができるようにしたかったんです」

不思議なスペースが生まれた理由を、graf代表の服部滋樹さんはこんな風に語る。実際、カフェのテーブルのすぐそばにまで展示用の家具が並び、くらしの道具を集めるショップは市場のように広がっている。ふと上を見ると、キッチンと天井のすき間が収納スペースになっていて、家具がどんどん運び込まれている。間取りや導線が自由と云うか、わざと崩して楽しんでいるようにすら思える。

「フラットな空間にいろんな要素をまぜこぜにすることで、僕たちにもまた違ったアイデアが生まれてくると思う。『生活スタイルが変わっていく中で、今までどおりのLDKみたいな発想で良いのか?』とかね。ここへ来ることが何かのきっかけになれば」と服部さん。ここはただのカフェでもショップでもない、食べたり、座ったり、手に取ったり、新しいものを生み出すための身体的な刺激に溢れた実験スタジオなのだ。

graf studio

体にやさしく生産者の思いのこもった食材を使ったカフェ、職人の手仕事が生きる暮らしの道具が集まるショップ、grafのオリジナル家具のショールームを兼ねた空間。2階にはオフィスが。☎06-6459-2100(1階ショップ) 11:00AM~7:00PM 月曜休(祝日の場合は翌日休)

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

●京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/テリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
●大阪市北区・中央区・福島区 [書店]旭屋書店 梅田地下街店/旭屋書店 堂島地下街店/カペラ書店/紀伊国屋書店 本町店/ジュンク堂書店 大阪本店/ジュンク堂書店 梅田ビルトンプラザ店/ジュンク堂書店 天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/スタンダードブックストア/天牛坂書店 大江橋店/ブックファースト 梅田店/ブックファースト 淀屋橋店/文教堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店
[公共施設・大学関連施設など]アイスポット/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立中央図書館/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪フィルハーモニー会館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪城スクエア/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪リバーサイドキャンパス/国立国際美術館/CITY NAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住い情報センター/中央電気倶楽部/ホテルNCB/メック屋町/立命館大阪オフィス/龍谷大学大阪梅田キャンパス
[店舗・医院など]アリアスカ マーブルトレ/アンドール 本町本店/上町貸自転車/Ultra 2nd/江戸前鰻料理 志津可/天満橋鍼灸整骨院/MJB珈琲店/大西洋服店/OOO(オー)ノカセッタ/喫茶センター/喫茶SAWA/グランドスイート中之島/黒門さかえ/コモンカ/サウ花店 中之島本店/ザ・メロディ/じろ亭/Girond's JR/心斎橋山田兄弟歯科/住友病院/セブンイレブン大阪証券取引所店/タビエスタイル/ティンハウス/ミカ/たまたが鍼灸整骨院/東郷歯科医院/NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャノ/パストラル/花かつ/BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマニアカフェ/フレインハウス/ミニジロー/宮崎歯科/やきとり ばかや/吉田理容所/ラッカーニャ/LES LESTON
●大阪市内その他 [書店]伊勢屋書店/大阪書店/紀伊国屋書店 京橋店/なんばミヤタ/福島書店/柳々堂/ループル書店 [公共施設・大学関連施設など]大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪市立図書館/川口基督教会 [店舗・医院など]あじさい/アートアンドクラフト/欧風食堂 ミリパール/大阪市信用金庫 江戸堀支店/御舟かもめ/Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かごキッチン/ネイルサロン スワナ/バルビコ/ホテル64オオサカ/MANGUEIRA/Loop A
●大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学運堂 フレスト店/Books 呼文堂/水嶋書房 くずはモール店/水嶋書房 くずは駅店/大阪狭山市立図書館/大阪大学企画広報・学芸連携事務局/大阪大学 21世紀懐徳堂/大阪大学本部/寝屋川市役所/摂南大学 地域連携センター/郵政考古学会/ゆったりん
●大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/大手通リストリットギャラリー 街・発信/納屋工房/タバーン・シン普森/百録/奈良県立図書館情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 キャンパスがあった頃。

好評連載だった久坂部羊さんの「中之島ふらふら青春記」がいよいよ単行本化！
中之島に阪大のキャンパスがあった、古き良き時代をふり返る。

●『月刊島民』vol.56は2013年3月1日発行です！

編集・発行人/江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行/月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン/山崎慎太郎
表紙イラスト/奈路道程
印刷/佐川印刷株式会社

祝祭に包まれて

—わたしのフェスティバルホール—

取材・文/松本 創(本誌)

「来年、私どもの会社は50周年を迎えるのですが、何年経っても、どんな大きな舞台を作っても、中之島のフェスティバルホール、あの場所が私たちのふるさとなんですよ」

「日本ステージ」の山下嘉治会長(78)は取材の中で「ふるさと」「原点」という言葉を何度も口にしました。

昭和39年(1964)、大阪で設立された同社は、コンサートやバレエや歌舞伎などの舞台芸術をはじめ、あらゆる公演やイベントで舞台設営や美術・大道具を手掛ける。大阪ばかりでなく、東京で、全国各地で。クラシックの本場であるヨーロッパの劇場、シヨビジネスのメッカ、ラスベガスでの公演など、海外でも文字通り「大舞台」を作ってきた。その歩みは、連載第2回で紹介した文化鑑賞団体「大阪労音」との縁から始まっている。

「兄が別のホールで美術の仕事をしていて関係で、大阪労音の舞台を作る専属の会社として設立したんです。当時、大阪労音は日本一大きな文化団体。その公演会場であるフェスも日本一のホールということで既に国内外に知られていた。大きな相手と仕事をするからには名前も大きい方がいいと、この



「新しいフェスの舞台を手がけるのを楽しみにしています」と山下さん。

第4回
日本ステージ株式会社社長
山下嘉治さん

半世紀の歩みが 始まった「ふるさと」。



昭和42年(1967)に行われた、パイロイト・ワグナー・フェスティバルの舞台制作の様子。日本ステージの社員が制作に当たっている。

社名にしたんです。たった10人ほどの新興の会社が、ですよ(笑)」
山下さんは主に経営面を担当したが、当初は何しろ人手不足。時には現場に

「あの時は、ホールを1ヵ月ほど休館して舞台を大改造したんです。私たちは当時、港区にあった大きな見本市会場を借りて、そこで作業した。ドイツから来たマイスターの指導でね。世界的にも超一流の音楽祭ですから、それは大変ですけど、裏方である私たちにとって誇りでしたよね」

ヨーロッパの標準に合わせて、舞台の間口を正方形にしつらえ、本場の空間を再現した公演は、今や伝説として語り継がれている。

その後、大阪万博や花と緑の博覧会があり、バブル景気の頃には次々と大規模な会場やホールがオープン。同社は昭和59年(1984)に東京事務所を開設すると、全国を回るコンサートツアーや遊園地のアトラクション、パ

レードなどのイベントまで手掛けるようになる。そのアーティスト名がすごい。マドンナ、マイケル・ジャクソン、ポール・マッカートニー。今だと、ジャニーズやAKB48まで。

「この世界は技術の進歩が速く、ハイテク化がすごいです。80年ごろにレーザー光線の演出が出てきたと思ったら、今は舞台背景にCG(コンピュータグラフィックス)を使うのが当たり前。会場も、ホールというより、ドームやアリーナのような場所に、一からステージを作ることが求められるようになった。コンサートというより、イベントですね。数万人規模の」

私たちの原点は舞台であり、生音のコンサート。それはフェスなんです。もう一度、そう繰り返した。



2013年4月 オープン!
festival hall

www.festivalhall.jp/
提供/株式会社 朝日ビルディング

うまく着付け
できたかな。

青柳小路

中之島けい子

着物に挑戦！

チャレンジ！
おけいはん

Vol.1

おけいはん、 着物で祇園さんぽ

京阪電車にのって、祇園四条駅から、和服の映える花街へ。

おけいはんが自分で着付けて、祇園さんぽに挑戦！
実況ムービーやエリア紹介マップをweb上でご紹介しています。

チャレンジおけいはん

検索

おけいはん
Facebook

@c_okeihan

おけいはん、
京阪の
人。

※詳しくは、ホームページまたは京阪電車主要駅でチラシをご覧ください。

